

テーマ3 公共施設の多様な利用

冬期ボランティアサポートプログラム (VSP) による快適な雪みちづくり

【背景】歩行者転倒事故の増加や「ユニバーサル社会」の実現へ対するニーズの増加

【ねらい】地域の方々との協働で行われる冬期VSPをサポート。移動式融雪機、流雪溝への投雪、歩道への砂撒きを実施し、安全で快適な雪みち空間づくりをめざします。

富良野バス停の除雪作業 平成17年度の実績



融雪機による融雪作業状況



設置された砂箱(右)と企業による砂撒きの実践(左)

これまでの取り組み

旭川みずほ通り商店街振興組合との協働により国道40号にて移動式融雪機による融雪作業を平成18年2月27日に実施。

また、今年度1回目の融雪作業を平成18年12月17日に実施。

流雪溝への投雪は旭川建設業協会二世会、旭川開発建設部旭川道路事務所・旭川市・旭川土現及び流雪溝管理運営協議会と沢山の参加者により平成18年2月26日に行われました。

旭川市内中心部の歩行者が多い交差点、横断歩道部に砂箱を44基設置しました。

展開内容

移動式融雪機による融雪作業

地域住民および道路利用者の冬期通行の安全を図り、地域の皆様との協働によるユニバーサル社会の実践として交差点・歩車境界での融雪作業に協力します。

流雪溝への投雪

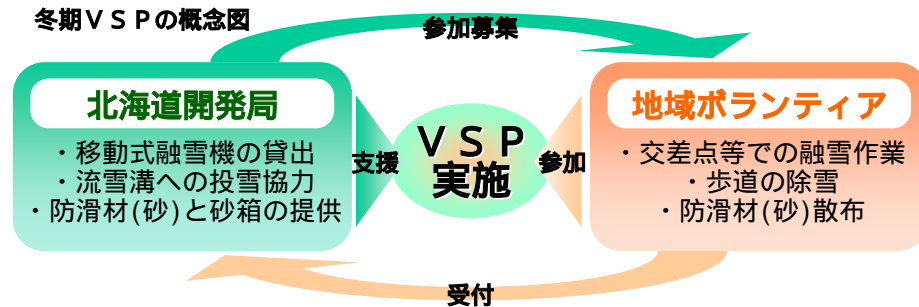
進む高齢化による不在地主・独居老人宅などの除排雪の困難な地域で歩行者の安全を確保するために流雪溝への投雪作業を行います。

歩道への砂撒き

冬期間の歩行者にとって安全で歩きやすい歩道づくりに役立てることを目的として、旭川市内中心部の歩行者が多い交差点、横断歩道部などを中心に砂箱を増設しました。

設置した砂箱は間伐材を使用し、中に入っている砂の容器にはペットボトルを利用するなど、環境に配慮したものとしました。補充については、地域のボランティアの方々より要請を受け補充しています。

冬期VSPの概念図



テーマ3 公共施設の多様な利用

川のふるさと交流館さららを活用した地域交流と情報発信

【背景】地域の連携・交流の場「川のふるさと交流館・さらら」を拠点とした河川空間活用の要望

【ねらい】環境教育や地域の歴史・文化を伝承する場として地域交流及び情報発信をするため資料館等を有効活用する。



永山新川に点灯されたエコキャンドル



共同して行うイグルーづくり



「さらら」内でのパネル展示



築山(備蓄土砂)を活用した滑り台

展開内容

「永山新川エコホテル＆冬まつり」の実施

河川空間に親しんでもらい、河川空間が地域の交流の場となるように、雪像やイグルーづくりなど冬ならではの活気あるイベントを地域の方々と協働して実施します。

水質悪化の原因ともなる家庭の廃油から作ったエコキャンドルを、本物の「ホテル」が棲む永山新川となるように願いを込めて「エコホテル」として点灯させ、永山新川の水環境やその改善策等について共に考えます。

実施時期：平成19年2月(予定)

実施場所：「川のふるさと交流館さらら」

協働主体：NPO法人水と緑のふるさと永山を育てる会

NPO法人ネイティブクラーク

旭川開発建設部

これまでの経緯

平成16年3月「牛朱別川分水路事業」が竣工して、「永山新川」が誕生し、その管理と水防の活動拠点として「永山新川管理センター(川のふるさと交流館さらら)」が誕生。

平成17年4月河川広報施設を核とした「ながやま子どもの水辺協議会」を発足。

地域の方々を主体とした各種交流イベントを開催。

テーマ3 公共施設の多様な利用

シビックコア地区を活用したイベントの開催

【背景】シビックコア地区の整備が進み全体概要が見えつつあります
【ねらい】市民に対して地区の現状及び将来の姿を見ていただき、
今後、施設の多様な利用から地区の賑わいをつくりだします



合同庁舎アトリウムの有効活用

市民講座、シビックコア地区見学会、クリスマスツリー展示、ミニコンサート等。

イベント内容

実施主体

旭川市、北海道開発局営繕部、旭川開発建設部等が連携して実施。

取り組み内容

北彩都あさひかわ地区の中で国及び市の施設整備を進めている旭川シビックコア地区を活用した多様な利用を提案していく。

それらの呼び水として合同庁舎アトリウム等を会場に「公共建築の日 フェスティバル2006in北彩都」を開催した。次年度に向け開催主体を拡げるための準備をする。

子供・市民向けの体験参加型イベントを検討する。

テーマ3 公共施設の多様な利用

農業用用水路敷地を利用したクロスカントリーコースの設置

【背景】地域の身近な農業水利施設の多面的利用

【ねらい】冬季間の農業用施設を利用して、地域のスポーツ少年団等の活動を支援



用水路盛土法面につつじの植樹



「せせらぎ水路」管理用道路に絵入り丸太の設置

これまでの取り組み

国営空知川右岸地区で造成した山手幹線用水路周辺では、これまでも以下の取り組みを行っています。

平成17年9月には、鳥沼小学校の傍をとる用水路のり面に、つつじの苗木(100本)を植樹。

平成18年7月には、山手幹線の旧用水路の一部を利用した「せせらぎ水路」の管理用道路に絵入り丸太を設置。

これら一連の協働により、地元小学校および地域住民から高い評価を得ています。

展開内容

北海道開発局は、農業農村整備事業で造成した施設の利用をとおりて地域の快適な生活環境の創造を支援しています。

国営空知川右岸地区で造成した山手幹線用水路の敷地を利用したクロスカントリーコースを地元の方々と協働して設置します。

平成18年度は、富良野市鳥沼クロスカントリースポーツ少年団等の練習コースとしての利用を支援します。

実施時期 1月～3月

協働主体 富良野市立鳥沼小学校、地元住民、
富良野土地改良区、鳥沼スポーツ少年団、
旭川開発建設部富良野地域農業開発事業所



クロスカントリー